インドネシア産業視察

年6％の成長力 魅力

日刊工業新聞社と日本産業人クラブ連合会

日刊工業新聞社と日本産業人クラブ連合会は3月4日から7日までの日程（一部は9日まで）でインドネシアに初の産業視察団（団長＝増田文治マスダック社長）を派遣した。経済成長著しいインドネシアの実情と産業の現場を確認しようと、東京、埼玉、新潟、神奈川、茨城、群馬、掛川、滋賀の各産業人クラブから総勢34人の会員が参加した。また日刊工業新聞社からは井水治博社長以下、6人のスタッフが随行。一行はスラバヤとジャカルタを観光バス2台に分乗し、行政機関、進出日系企業、それに現地企業を精力的に視察した。

今回の視察会は日本インドネシア経済協会会長で、インドネシア東ジャワ州とバタムフリーゾーン監督庁の顧問を務める木下一氏（日刊工業新聞社顧問）の協力を得て実現した。木下氏は松下電器産業（現パナソニック）のインドネシア現地法人を立ち上げ、長期にわたって社長を務めたインドネシア通で、現地に幅広い人脈を持っている。

円高や海外企業との競争激化に見舞われるわが国の製造業にとって、海外進出、とりわけアジア経済圏との関係強化はますます求められている。

こうした中、中小製造業の経営者で構成する産業人クラブは、アジア経済圏の中でも、世界第4位の人口（2億4000万人）を抱え、石油、石炭、天然ガスなど天然資源が豊富なインドネシアに着目。現地の最新経済情勢、産業動向などを調査する目的で視察団を組んだ。募集開始からわずか1週間で30人以上が応募するなどインドネシアへの関心の高さをうかがわせた。

視察団は4日夜、スラバヤに到着。翌5日は午前に東ジャワ州庁舎を訪問、州政府関係者から投資説明を受けた。日系企業の進出が集中し、工業団地が満杯状態の首都ジャカルタ地区に比べて、東ジャワ州はまだ日系企業の進出も少なく、現在積極的な投資を呼び込もうとしている。説明に立った東ジャワ州のハリー・プラス経済顧問は「年率6％以上の成長力が魅力」と、東ジャワ州への進出メリットや投資の現状について解説し、参加者へ投資を呼びかけた。

同日午後は同地域に進出する日系企業を視察した。視察先はエビの養殖加工を手がけるSKフーズインドネシア、旭硝子グループの現地法人、アサヒマスフラットガラス、サンダルメーカーのダイマツ・インダストリーインドネシアなどを三つの班に分かれて視察した。また、同日夜、スラバヤ市内で行った懇親会には見学先企業の関係者に加えて、急遽（きゅうきょ）、在スラバヤ日本国総領事館の高野正明総領事が駆けつけ、参加企業の経営者と交流を深めた。

■□

視察団は6日早朝にスラバヤを出発し、空路で首都ジャカルタに移動した。6日はインドネシアの経済成長や市場の魅力、進出・立地の課題などについて研修するため日本貿易振興機構（JETRO）ジャカルタ事務所とインドネシア工業省を訪問した。JETROジャカルタ事務所では富吉賢一所長が統計表などを用いてインドネシアの市場と経済成長性を解説。「インドネシア経済はこれから本格的な発展段階に入る。日本からの進出企業は8割が利益を出しているが、いずれも努力の結果だ」と同国の実情を踏まえながら現地の最新情報を述べた。

続いて訪れたインドネシア工業省で行われたプレゼンテーションには、インドネシア側からヒダヤット工業大臣、ゴーベルインドネシア日本友好協会理事長、ブディ先端技術産業総局長が出席。ヒダヤット工業大臣は「インドネシアの工業成長は6％以上を守っていきたい。投資される企業に対して優遇税制などで歓迎します」とあいさつした。

翌7日午前はインドネシア投資調整庁を訪問、午後は白物家電品を製造するパナソニック・マニュファクチャリング・インドネシアと自動車やバイクのシートを生産するメイワインドネシアを視察した。視察団の一部はその後同日夜、日本に帰国したが、他のメンバーは翌8日朝にバタム島に移動した。リアウ諸島州からの招きを受けての現地視察であり、バタム島に隣接するビンタン島の州庁舎にムハマッド・サニ州知事を表敬訪問し、9日午後まで工業団地などを視察した。

日本産業人クラブ連合会は、今後もインドネシアとの関係強化を進めるため継続的に現地に産業視察団を派遣する。第2回は2012年6月上旬に1週間の予定で西日本地区の会員を中心に視察団を構成する。

本格的な発展段階へ

ヒダヤット工業相「優遇税制で歓迎」

上 東ジャワ州政府で記念品の交換
下 インドネシア投資調整庁でのブリーフィング

経済成長が進む ジャカルタ市内

インドネシア地座談会

日刊工業新聞社はインドネシア産業視察に合わせて、インドネシアと日本両国の産業関係者が参加する現地座談会を3月6日、ジャカルタ市にあるインドネシア工業省で行った。座談会には日本側から同視察団長の増田氏（マスダック社長）ら、インドネシア側からインドネシア日本友好協会理事長のゴーベル氏（PGI会長）らが参加。両国の経済事情や相互のコラボレーション、経済交流などについて意見交換した。「今後もこうした会合を定期的に開催し、両国の産業発展に寄与していく」ことで一致した。

モノづくりの哲学 大切に

ゴーベル氏 日本の技術を「基盤」に

川瀬氏 溶剤リサイクルで貢献

井水　まず、インドネシア日本友好協会理事長のゴーベルさんに、インドネシア産業の魅力、日本企業への要望などについて、うかがいたいと思います。

ゴーベル　皆さんにとってインドネシア市場そのものが魅力的ではないかと思います。しかしながら現在、インドネシアの国内市場は輸入品が約50％を占めています。日本企業にお願いしたいのは日本の技術をこの国にトランスファーし、我々の産業発展のために協力していただきたいことです。また、企業誘致に関しては、単にインドネシアに企業を誘致するだけではなく、私自身はモノづくりのフィロソフィー（哲学）を大切にしたいと思っています。モノづくりのフィロソフィーによってこそ、素晴らしい品質の商品を生み出し、インドネシアの工業発展につながると考えます。

井水　川瀬さんの会社は製造業の現場で発生する廃液をリサイクルされています。ゴーベルさんのご発言を受けた形でお話しいただけませんでしょうか。

川瀬　当社は化学薬品のリサイクル事業を行っています。一般的に日本では溶剤と言っております。溶剤は1回使用すると、2回目は使えません。再利用するには、排ガスや排水中から溶剤を回収し、その回収液を精製して不純物を取り除く必要があります。私どもは単純にリサイクルするのではなく、ゴーベルさんがご発言されましたように、モノづくりの哲学を大切にして、新品より品質・機能が優れた、よいモノを作っていくことを目指しています。リサイクルを中心にして、新品は補助的に活用するという形に持っていきたいと考えております。こうしたリサイクルシステムを各産業分野ごとに軌道に乗せ貢献したいと思います。インドネシアは人口が多く、今後経済発展につれて溶剤が増加していくものと思います。したがって私たちは、いつ、どこに工場を建てるべきかを考えています。

井水　ゴーベルさんは日本企業に対してどのようなことをお望みでしょうか。

ゴーベル　環境問題はますます重要になっています。リサイクル事業をしている皆さんには、インドネシアに来ていただき、一日も早く環境問題を解消してもらいたい。また、インドネシアでは自動車産業が成長を続けており、家電産業も年率10％の割合いで伸びています。しかし、現状は先ほど述べたように、海外からの輸入品が半数程度を占めています。政府は現在、インドネシア独自の産業発展の規格づくりに取り組んでいます。顧客満足の高い商品を生み出す上から、ぜひ日本企業の力をお借りしたいと思います。

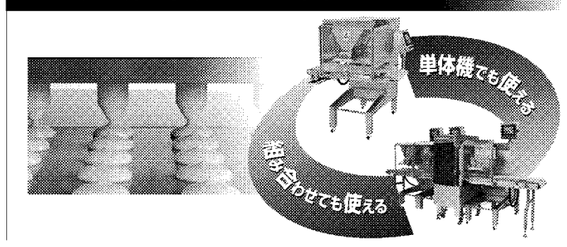
井水　ゴーベルさん、ありがとうございます。

（左面に続く）

東南アジアの成長エンジン　インドネシア特集

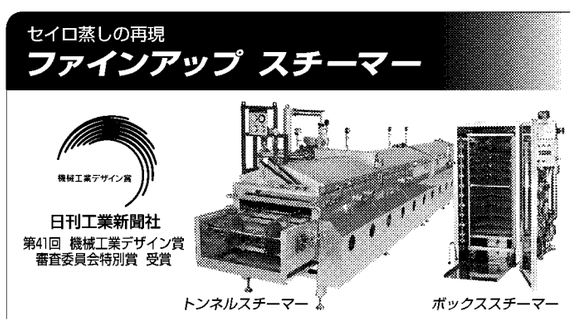
そのお菓子づくりを、もっと美味しく、新しく。
MASDAC
そのお菓子づくりを、もっと美味しく、新しく。

高い生産能力。使いやすく、優れた安全性
システムデポリー エボリューションII

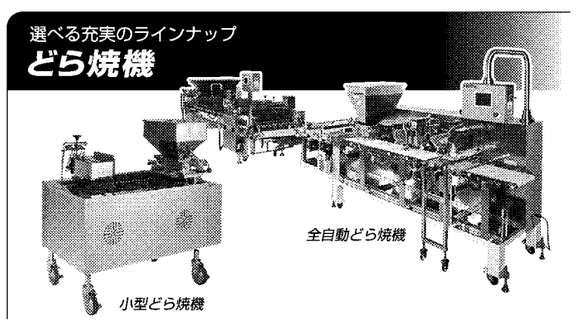


過熱蒸気で品質向上・生産性アップ・省エネ効果
サーマルメディアオーブン

セイロ蒸しの再現
ファインアップ スチーマー



選べる充実のラインナップ
どら焼機



詳しい情報はホームページをご覧ください
株式会社マスダック　本社・工場／☎04-2948-0161　FAX04-2948-3212　埼玉県所沢市小手指元町1-27-20　〒359-1147
カタログ・資料のご請求は ▸▸▸ 企画広報室 ☎04-2948-0162　[E-mail] info@masdac.co.jp　http://www.masdac.co.jp

電気通信工事、電気工事、防災設備工事
ソフトウェア開発、太陽光発電システム
それは、コミュニケーション・テクノロジー
SOHO 双峰通信工業株式会社
代表取締役　樋口正仁
〒950-0031 新潟市東区船江町一丁目55番11号
☎ 025-275-1211　FAX. 025-275-1222

プラスチック部品製造・販売、アルミ製品組立
株式会社F・S・エンジニアリング
代表取締役会長 竹内富夫
代表取締役社長 渡辺隆時
新潟県長岡市宝 2-1-10
TEL.0258-25-2292　FAX.0258-25-2294

真空機器の製作、電子ビームを用いた精密加工、高速同時5軸加工機を用いた精密加工
yacida
株式会社ヤチダ
代表取締役 谷地田茂明
〒959-1303 新潟県加茂市後須田701番地
TEL：0256-52-1395　FAX：0256-52-6064　URL http://www.yacida.co.jp/